

平成27年9月

築谷康人 学位論文審査要旨

主 査 黒 沢 洋 一
副主査 永 島 英 樹
同 萩 野 浩

主論文

Epidemiology of fragility fractures in Sakaiminato, Japan: incidence, secular trends, and prognosis

(境港市における脆弱性骨折の疫学について：発生率、近年の傾向、予後)

(著者：築谷康人、萩野浩、伊藤靖代、永島英樹)

平成27年 Osteoporosis International DOI : 10.1007/s00198-015-3124-z

参考論文

1. 右尺骨骨折の治療に工夫を要した先天性無痛無汗症の1例

(著者：築谷康人、岡野徹、山下優嗣、豊島良太)

平成25年 整形外科と災害外科 62巻 66頁～71頁

2. Oblong Cupを用いた寛骨臼側置換術の長期成績

(著者：築谷康人、岡野徹、岸本勇二、豊島良太)

平成25年 日本人工関節学会誌 43巻 359頁～360頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は医療機関を受診した脆弱性骨折の実態調査を行ったものである。さらに調査結果を過去の報告と比較し、骨折発生率の経年的推移も検討されている。その結果、脆弱性骨折の部位別発生率が明らかとなり、四肢骨骨折の発生率が1990年代と比較して増加していることが判明した。また骨折受傷前後において、骨粗鬆症に対する治療率および治療継続率が低いことも判明した。本論文の内容は、今後の骨折予防・健康寿命の延伸対策立案に有用であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。